

産業廃棄物処理業景況動向調査結果について 〔2021年10-12月期〕

公益社団法人全国産業資源循環連合会

〔調査結果の概要〕

今期の調査は363社から回答があった。景況判断DIは▲10(前期調査から3ポイント悪化)となった。来期の見通しは▲22となり、12ポイント悪化する見込みとなっている。

経営上の問題点については、5割以上の会社が「従業員の不足」を挙げた。

以下、その他業況感DIの内訳

2021年7-9月期に対して、

- ・売上高DIは11で、4ポイント改善
- ・処理量DIは2で、2ポイント改善
- ・営業利益DIは-2で、3ポイント悪化
- ・資金繰りDIは-1で、4ポイント悪化
- ・借入難易度DIは9で、前期と変わらず
- ・設備投資DIは4で、6ポイント改善
- ・従業員数DIは-2で、2ポイント悪化
- ・契約単価DIは、収集運搬が4で、4ポイント改善
処分が6で、1ポイント改善

- 売上高の動向については、前年同期比(3ヶ月平均)で2.8%増となった。
- 処理量の動向については、前年同期比(3ヶ月平均)で2.9%増となった。
- 経常利益率については、平均値が7.4%で前期調査(7.1%)より改善した。

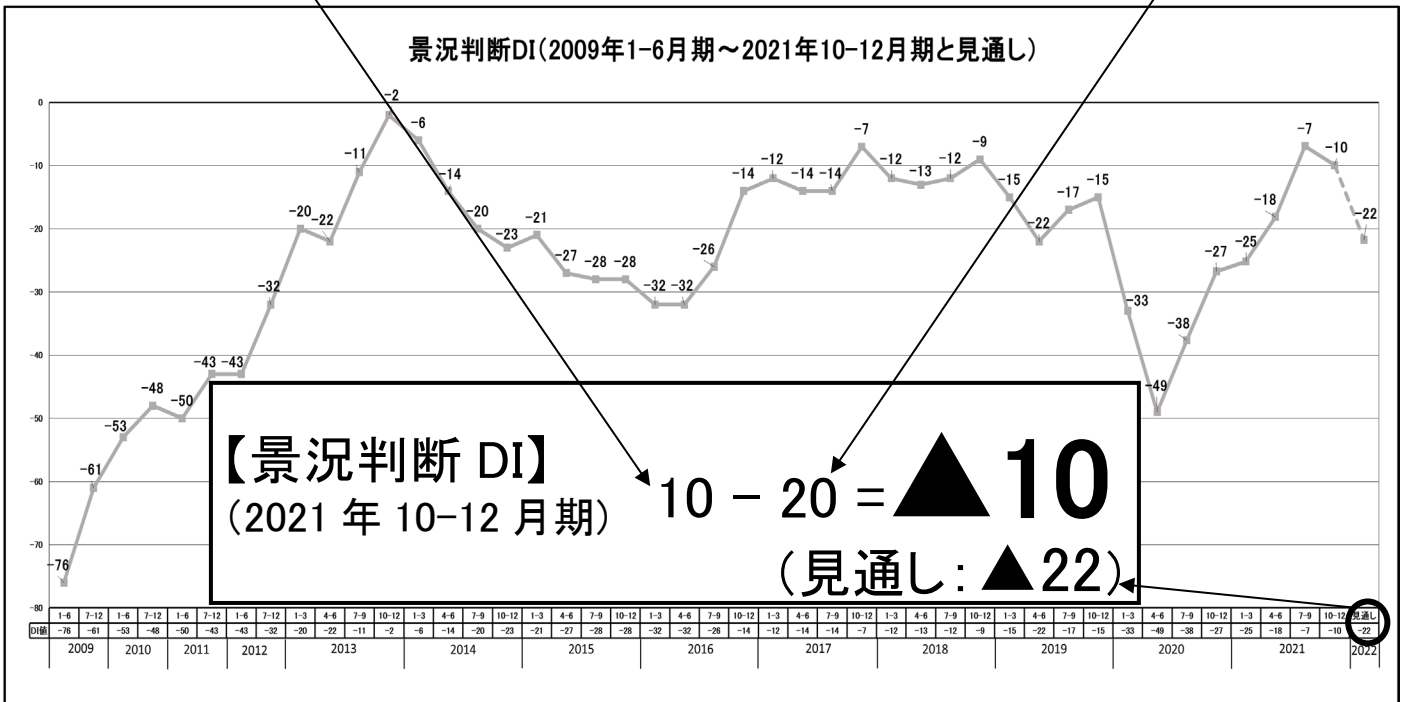
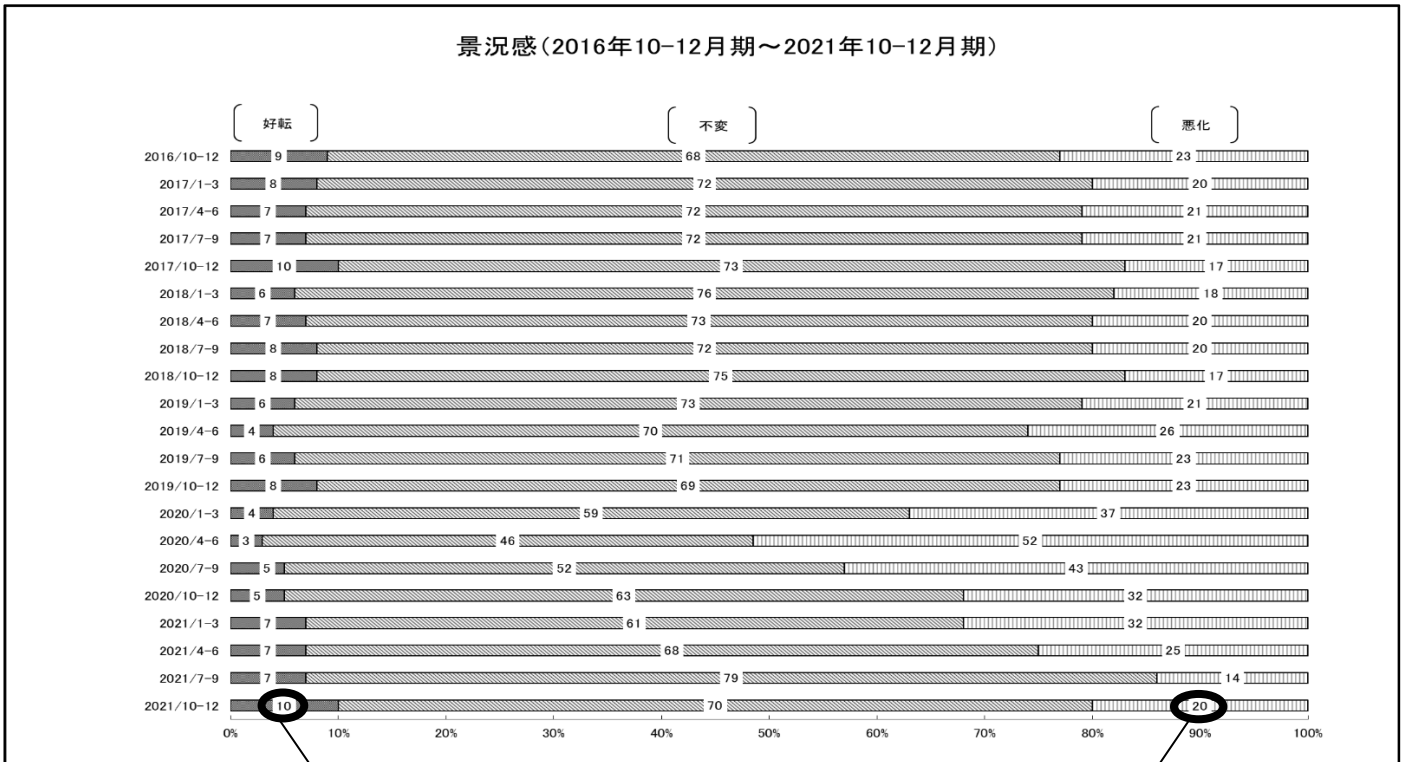
※DIとは、デフュージョン・インデックス(Diffusion Index)の略で、「好転」・「増加」したなどとする企業割合から、「悪化」・「減少」したなどとする企業割合を差し引いた値である。

※本調査は、2009年から半期周期の調査として実施していたが、2013年からは四半期周期の調査に変更している。

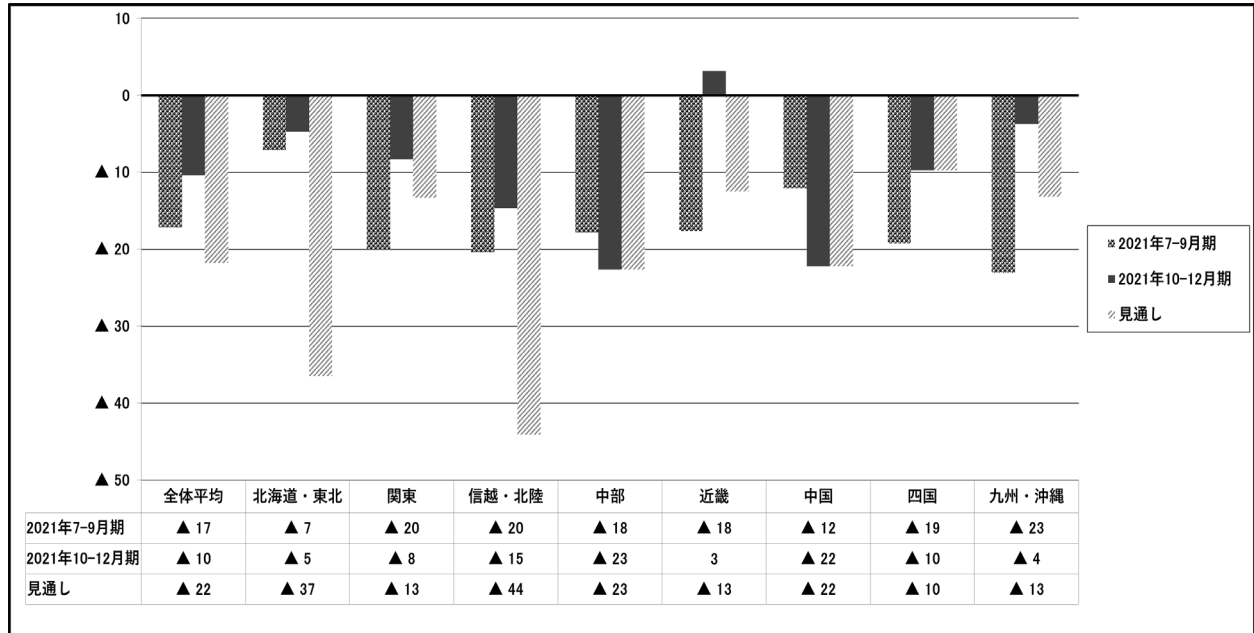
1. 景況感 DI(「好転」・「増加」―「悪化」・「減少」の企業割合)

(1) 景況判断 DI

- 景況判断 DI は▲10 となり、3 ポイント悪化した。
見通しは▲22 となり、12 ポイント悪化する見込みとなっている。
- 地域別の景況判断 DI をみると、「中部」、「中国」が悪化した。(3 ページ参照)
- 地域別の景況判断 DI 見通しをみると、「中部」、「中国」、「四国」は変わらず、その他の地域は悪化する見込みとなっている。(3 ページ参照)



地域別景況判断 DI

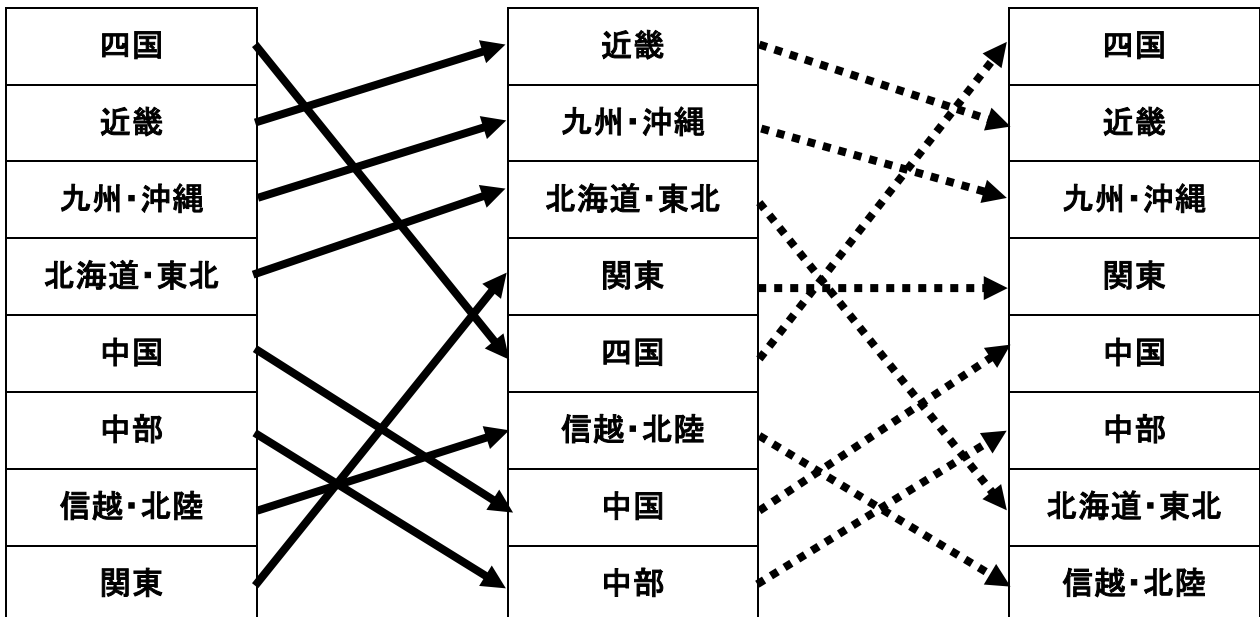


(ランキング推移)

2021年7-9月期
(前期)

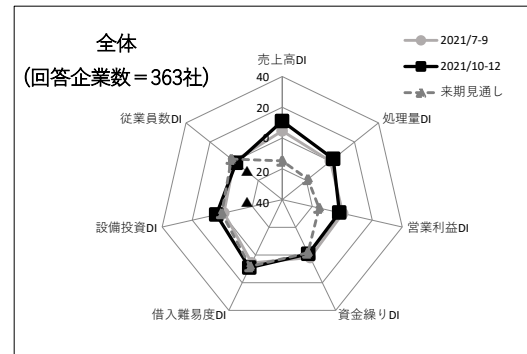
2021年10-12月期
(今期)

2022年1-3月期
(見通し)



(2) 売上高、処理量、営業利益、資金繰り、借入難易度、設備投資、従業員数 DI

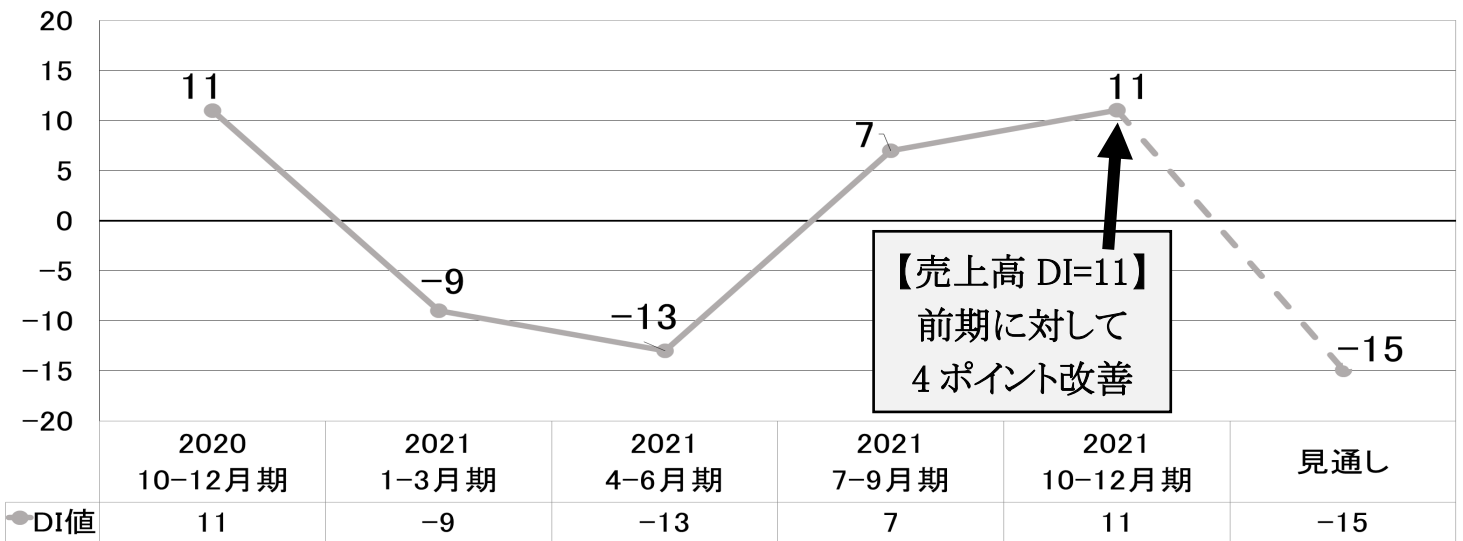
- 前期と比べて、売上高 DI、処理量 DI、設備投資 DI が改善した。
- 見通しは、従業員数 DI のみ改善する見込みとなっている。



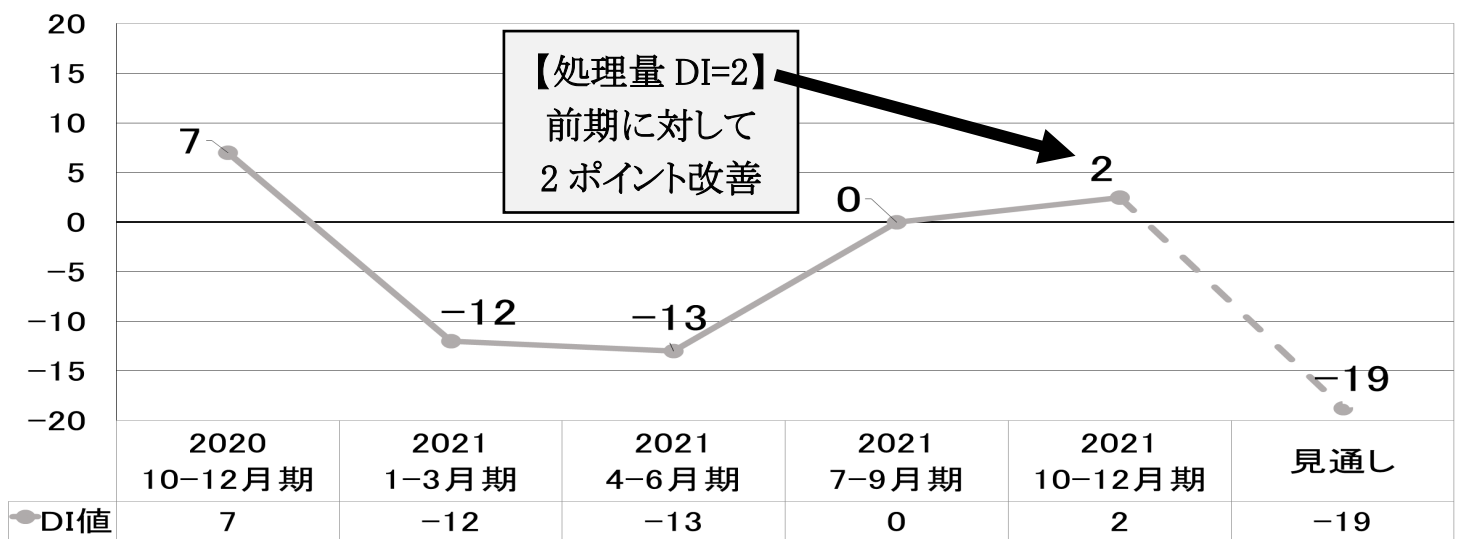
以下詳細(5~7ページ参照)

- ・売上高 DI は 11 となり、前期と比べて 4 ポイント改善した。
見通しは▲15 となり、26 ポイント悪化する見込みとなっている。
- ・処理量 DI は 2 となり、前期と比べて 2 ポイント改善した。
見通しは▲19 となり、21 ポイント悪化する見込みとなっている。
- ・営業利益 DI は▲2 となり、前期と比べて 3 ポイント悪化した。
見通しは▲15 となり、13 ポイント悪化する見込みとなっている。
- ・資金繰り DI は▲1 となり、前期と比べて 4 ポイント悪化した。
見通しは▲2 となり、1 ポイント悪化する見込みとなっている。
- ・借入難易度 DI は 9 となり、前期と変わらず。
見通しは 8 となり、1 ポイント悪化する見込みとなっている。
- ・設備投資 DI は 4 となり、前期と比べて 6 ポイント改善した。
見通しは 0 となり、4 ポイント悪化する見込みとなっている。
- ・従業員数 DI は▲2 となり、前期と比べて 2 ポイント悪化した。
見通しは 2 となり、4 ポイント改善する見込みとなっている。

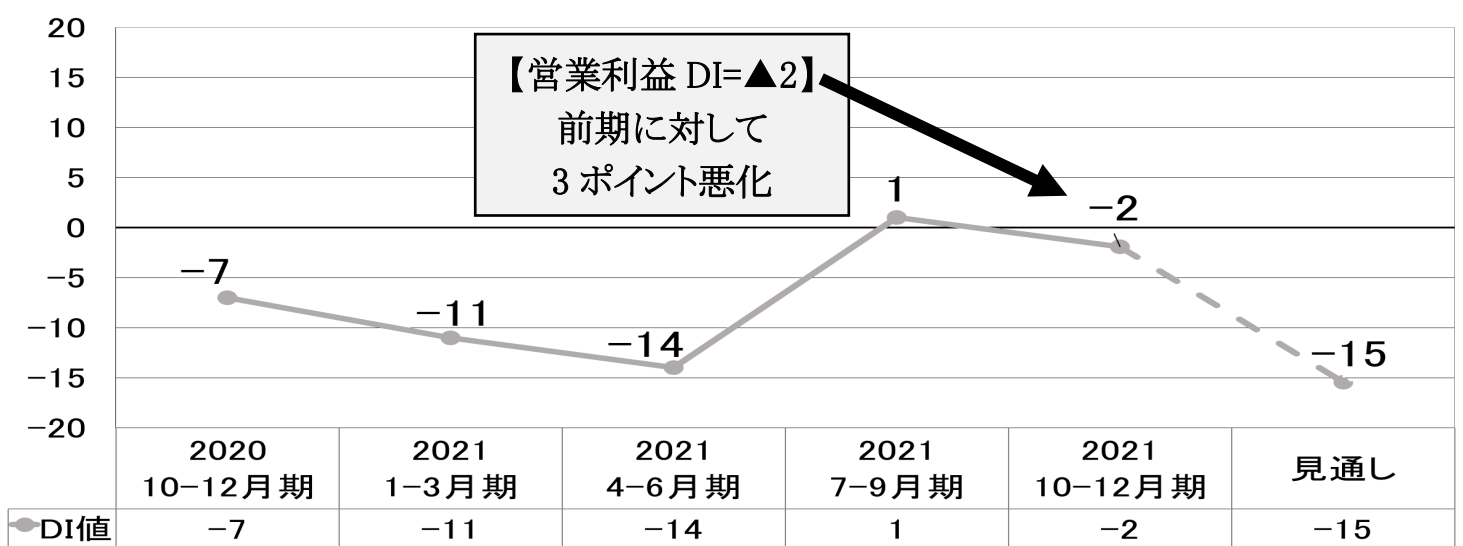
売上高DI (2020年10-12月期～2021年10-12月期と見通し)



処理量DI (2020年10-12月期～2021年10-12月期と見通し)

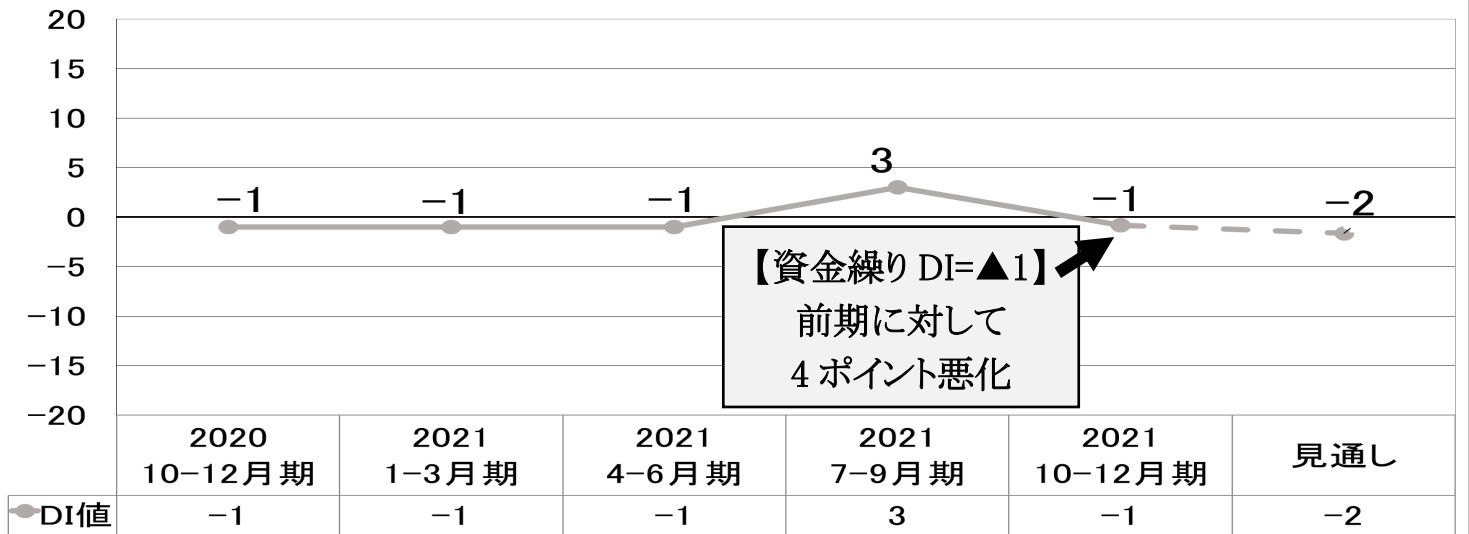


営業利益DI (2020年10-12月期～2021年10-12月期と見通し)



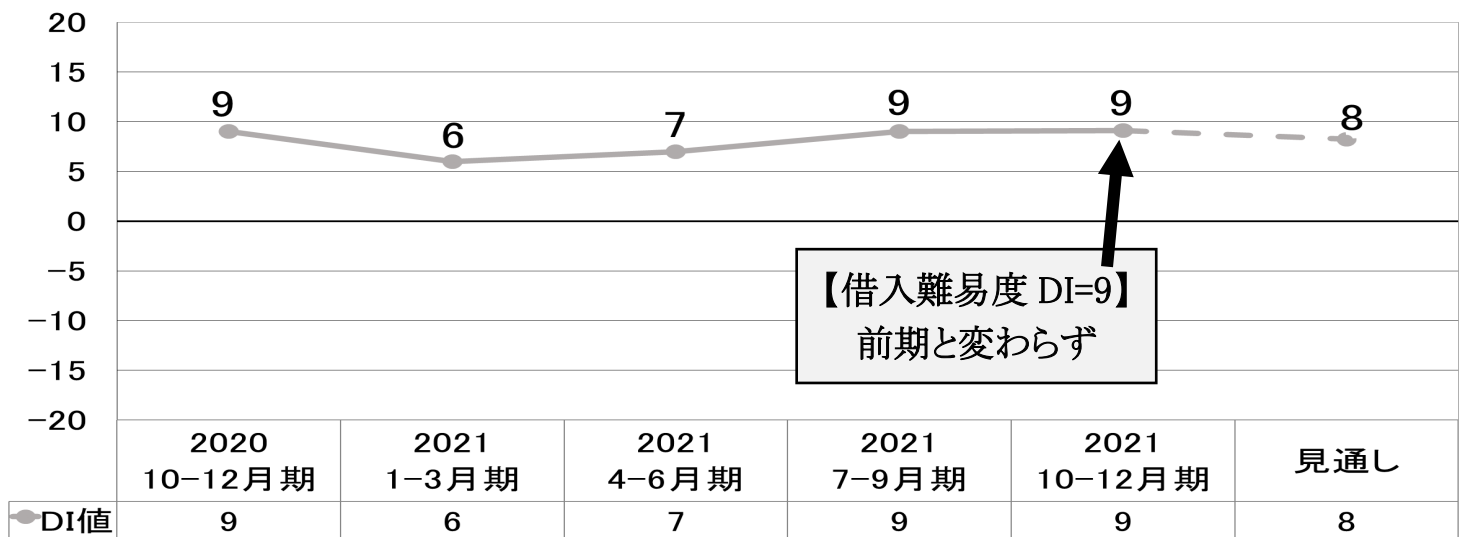
資金繰りDI

(2020年10-12月期～2021年10-12月期と見通し)



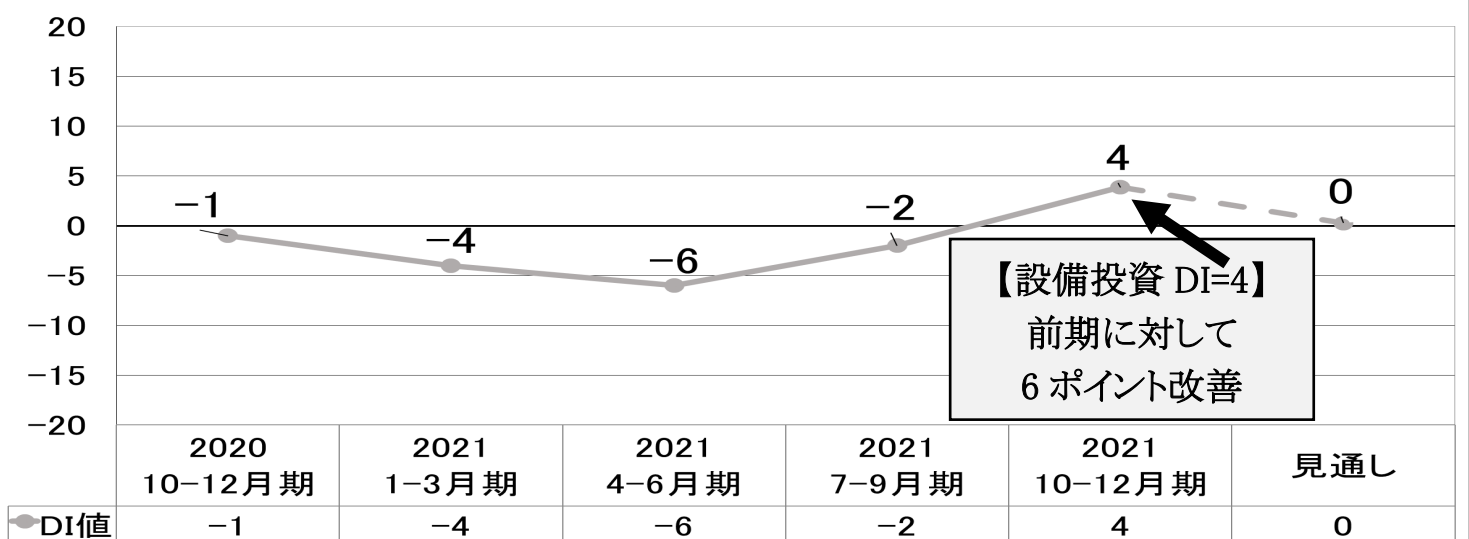
借入難易度DI

(2020年10-12月期～2021年10-12月期と見通し)

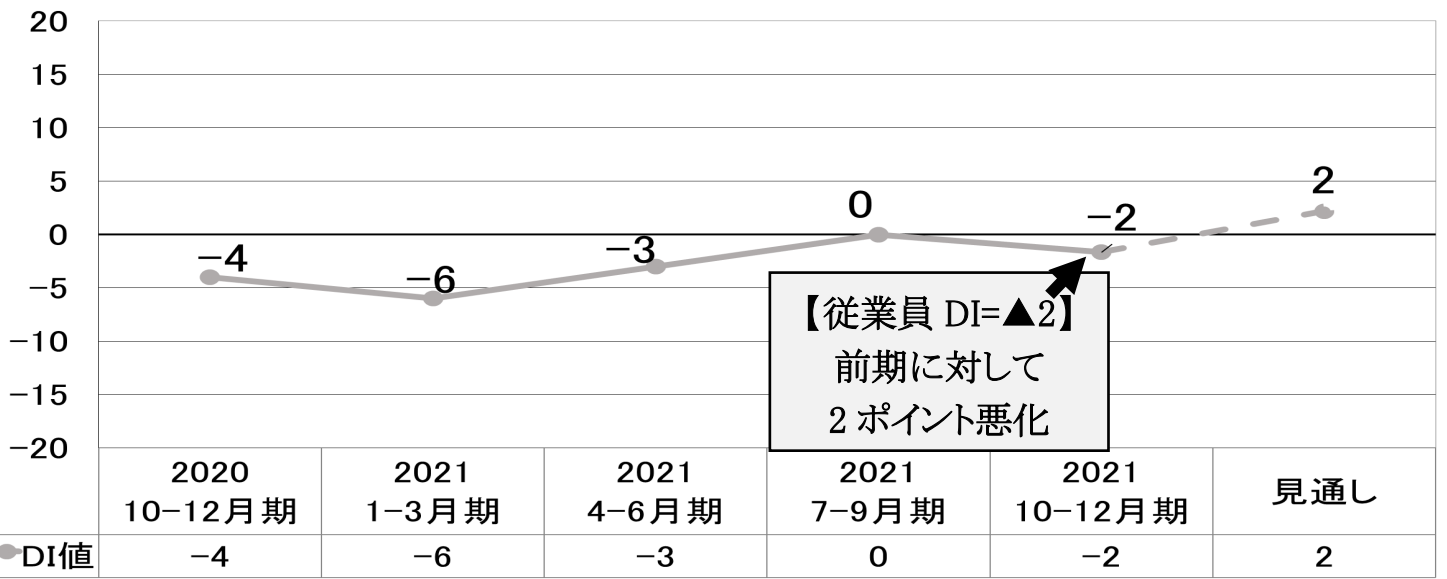


設備投資DI

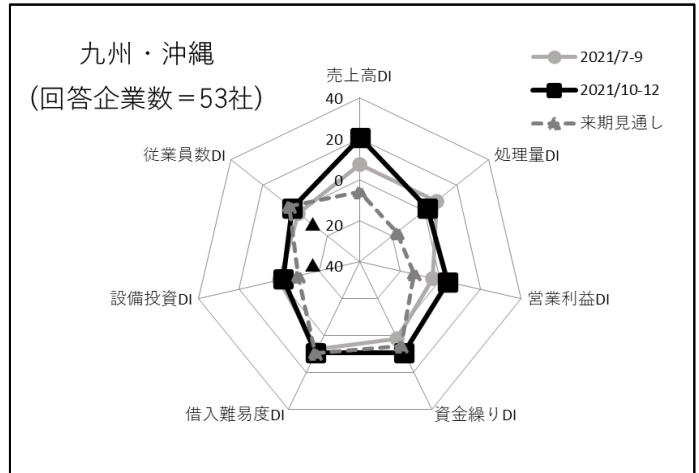
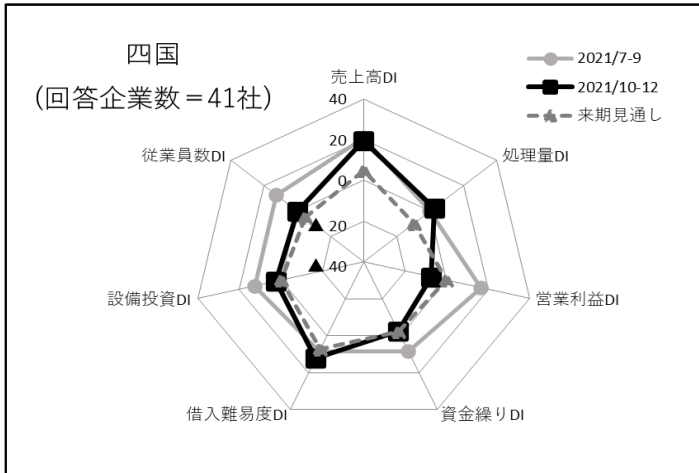
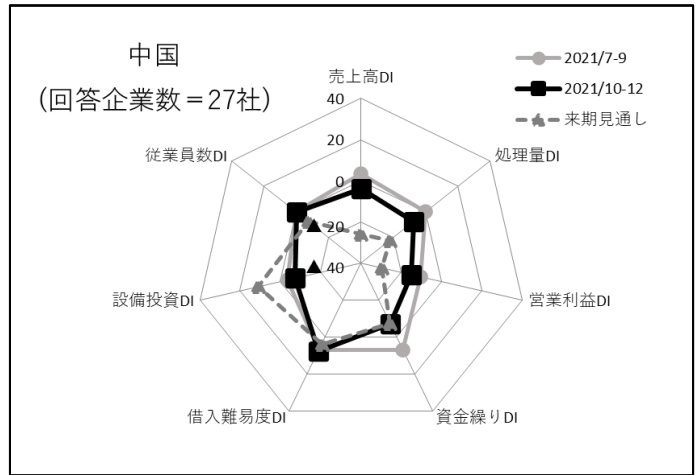
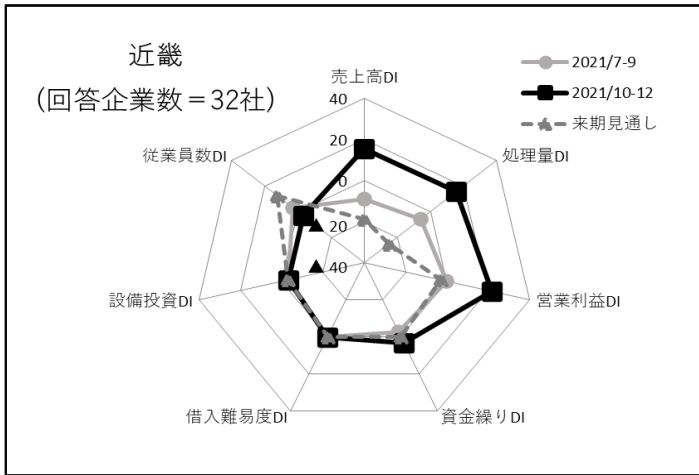
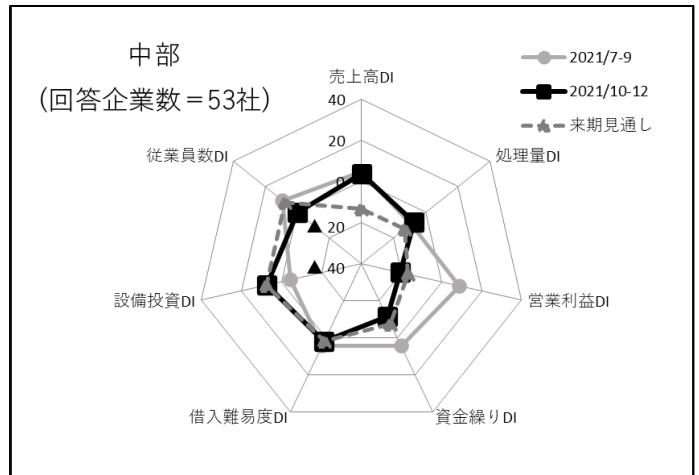
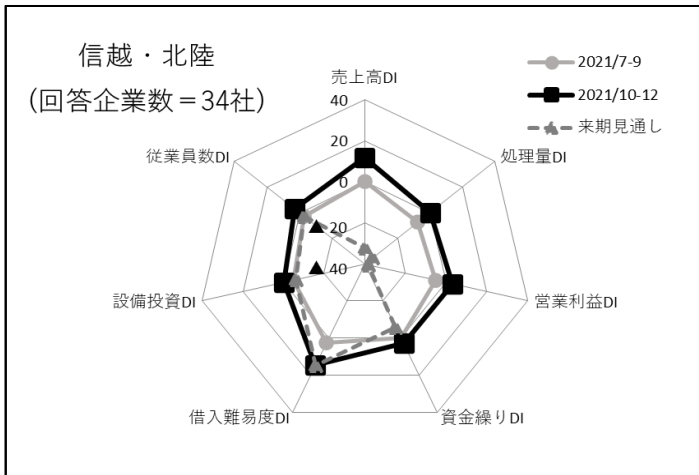
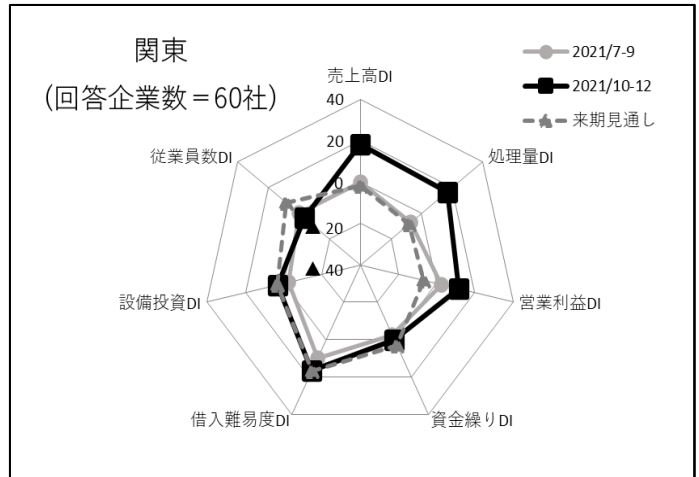
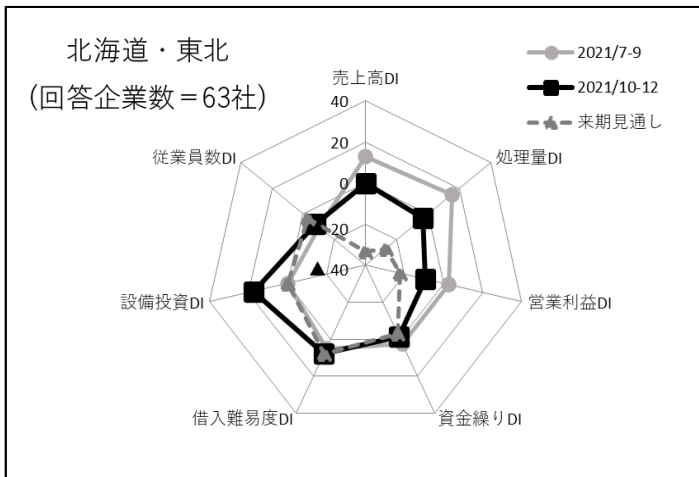
(2020年10-12月期～2021年10-12月期と見通し)



従業員数DI (2020年10-12月期～2021年10-12月期と見通し)

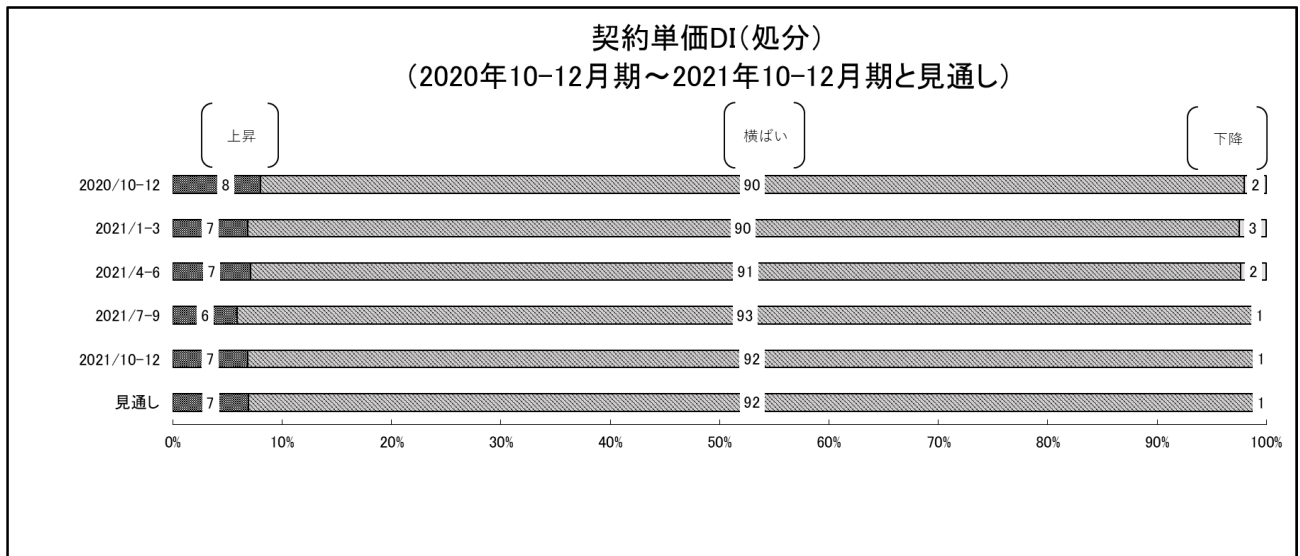
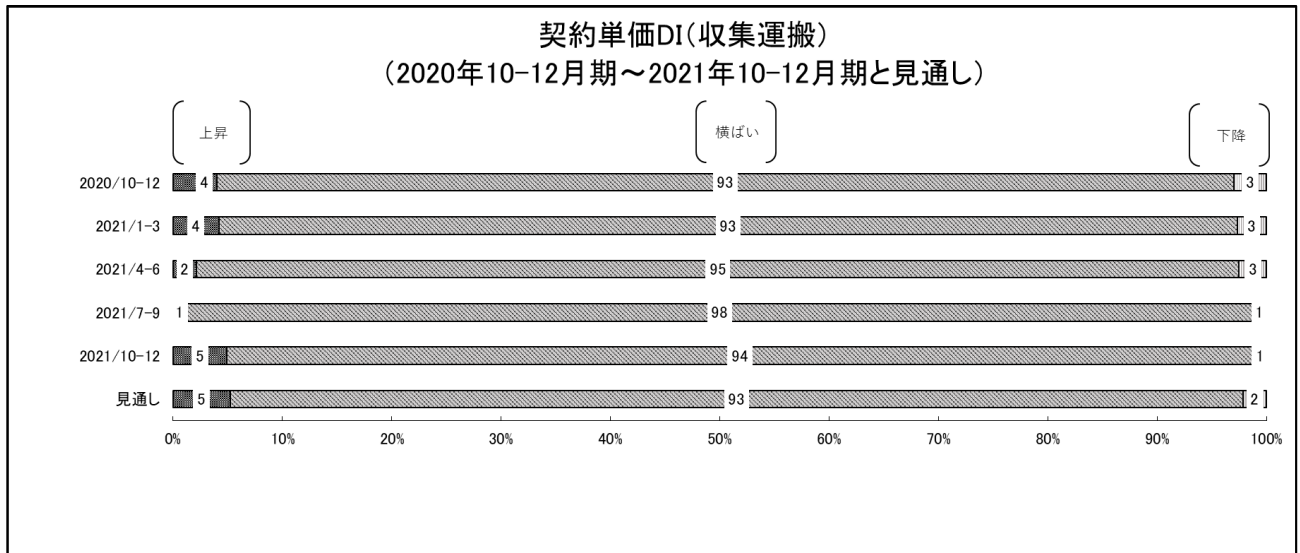


【売上高、処理量、営業利益、資金繰り、借入難易度、設備投資、従業員数 DI の地域別レーダーチャート】



(3) 契約単価 DI

- 収集運搬の契約単価 DI は 4 となり、前期と比べて 4 ポイント改善した。
見通しは 3 となり、1 ポイント悪化する見込みとなっている。
- 処分の契約単価 DI は 6 となり、前期と比べて 1 ポイント改善した。
見通しは 6 となり、変わらない見込みとなっている。



2. 売上高の動向

○ 前年同期比(3ヶ月平均)では、2.8%増となった。

有効回答数:124社

単位:千円

前年売上高	2020年10月	2020年11月	2020年12月	平均
	5,719,554	5,604,476	6,154,767	5,826,266
今年売上高	2021年10月	2021年11月	2021年12月	平均
	5,942,634	5,780,697	6,240,316	5,987,882
前年比	3.9%	3.1%	1.4%	2.8%

3. 処理量の動向

○ 前年同期比(3ヶ月平均)では、2.9%増となった。

有効回答数:132社

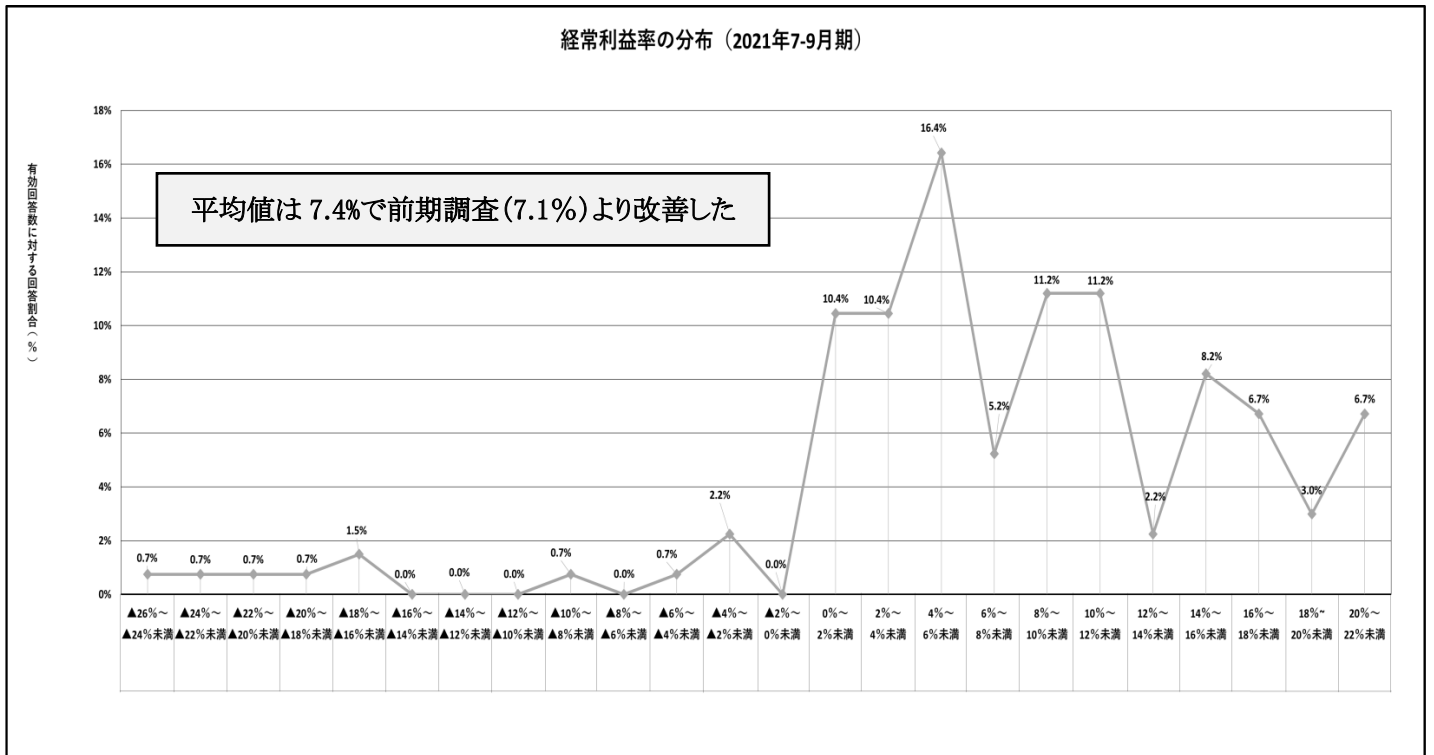
単位:トン

前年処理量	2020年10月	2020年11月	2020年12月	平均
	318,845	306,497	316,557	313,966
今年処理量	2021年10月	2021年11月	2021年12月	平均
	317,972	321,430	329,502	322,968
前年比	▲0.3%	4.9%	4.1%	2.9%

4. 経常利益率(経常利益の対売上高比率)

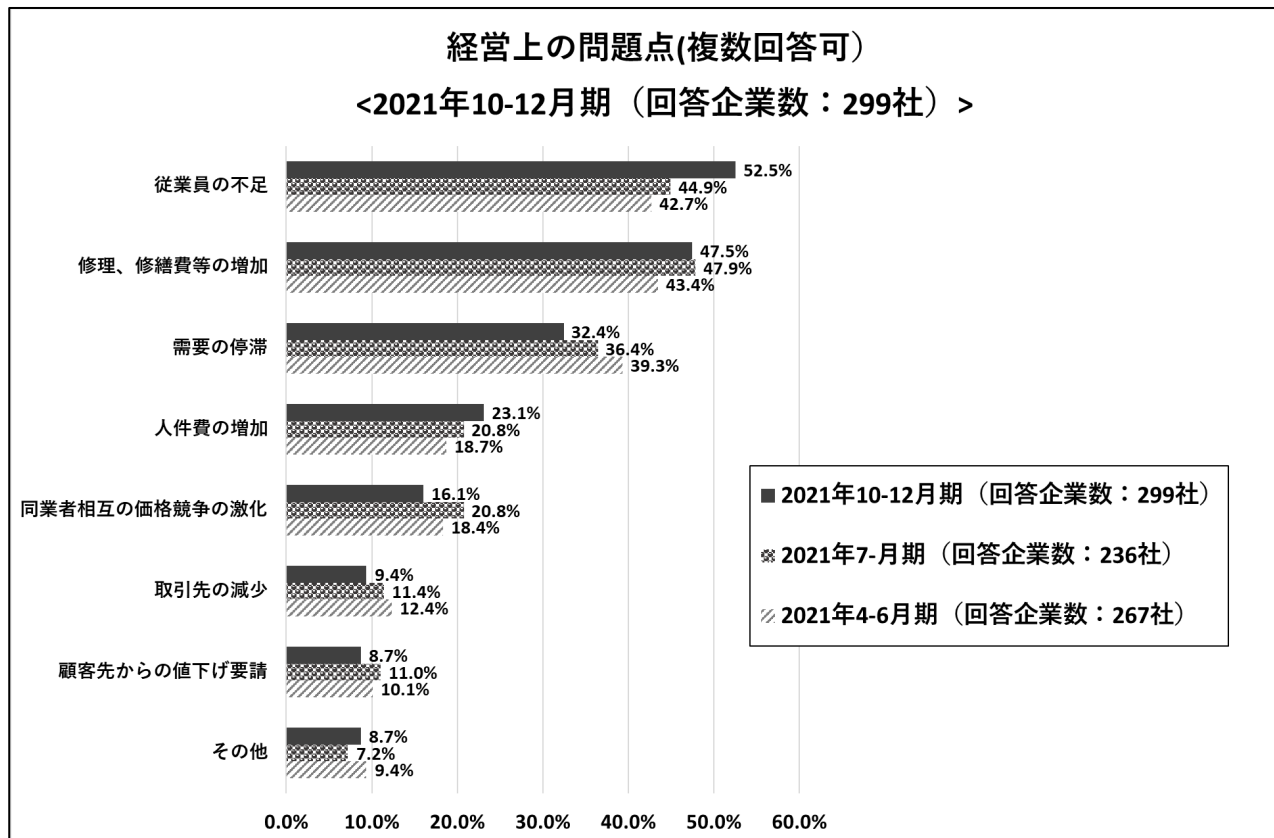
- 経常利益率の平均値は7.4%で前期調査(7.1%)より改善した。
- 最も回答が多かったのは、回答数22社(全体の16.4%)の「4%~6%未満」となった。

有効回答数:134社



5. 経営上の問題点(複数回答可)

- 経営上の問題点として、5割以上の会社が「従業員の不足」を挙げた。
- 「その他」の記述回答の内容は「新型コロナウイルス感染症の影響」が約3割を占めた。



【その他記述回答の代表的な意見】

- ・新型コロナウイルス感染症の影響(その他記述回答の26.9%)
(新型コロナウイルス感染症対応、景気悪化による廃棄物の減少など)
- ・燃料価格の高騰
- ・RPF 製造に必要な原料価格の高騰

〔調査実施要領〕

本調査は、産業廃棄物処理業の景気動向について把握するため、全国の協会会員企業、全国産業資源循環連合会理事及び部会運営委員会委員を対象に、各社の業況の現状と今後の見通しに関する判断を調査し、集計したものである。

(1) 調査対象者

全国の協会会員企業、全国産業資源循環連合会理事及び部会運営委員会委員

(2) 調査期間

2022年1月7日～1月31日

(3) 調査方法

Webによるアンケート

(4) 回答数・回答率

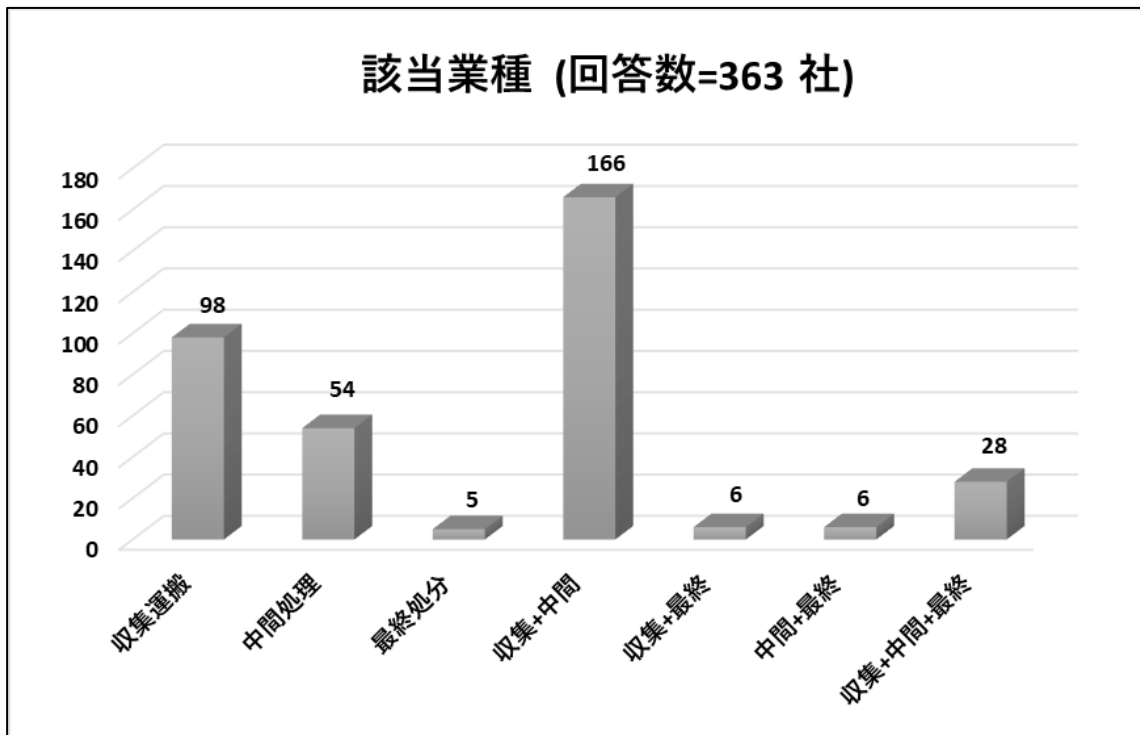
調査依頼企業数	1,156社
回答企業数	363社
回答率	31.4%

(5) サンプル構成

① 地域別構成

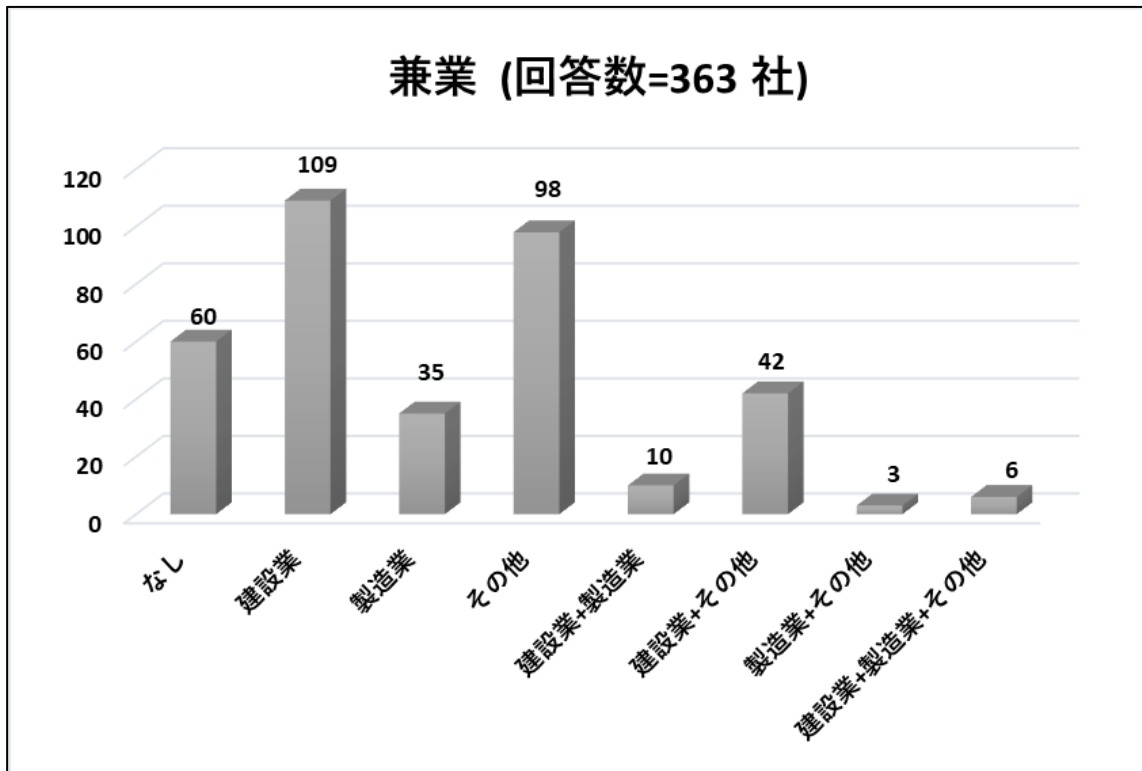
地域	企業数	構成比
北海道・東北	63	17.4%
関東	60	16.5%
信越・北陸	34	9.4%
中部	53	14.6%
近畿	32	8.8%
中国	27	7.4%
四国	41	11.3%
九州・沖縄	53	14.6%
合計	363	100.0%

② 業種別構成



該当業種	企業数	構成比
収集運搬	98	27.0%
中間処理	54	14.9%
最終処分	5	1.4%
収集+中間	166	45.7%
収集+最終	6	1.7%
中間+最終	6	1.7%
収集+中間+最終	28	7.7%
合計	363	100.0%

③ 兼業別構成



兼業	企業数	構成比
なし	60	16.5%
建設業	109	30.0%
製造業	35	9.6%
その他	98	27.0%
建設業+製造業	10	2.8%
建設業+その他	42	11.6%
製造業+その他	3	0.8%
建設業+製造業+その他	6	1.7%
合計	363	100.0%